

**令和5年度(令和4年度対象)**

# **教育委員会の点検・評価報告書**

**令和5年8月**

**養父市教育委員会**

## 目 次

はじめに	P 2～3
教育委員会の点検・評価について	P 4～6
1 趣旨	
2 対象	
3 点検・評価の方法	
4 学識経験者の活用	
養父市教育委員会の令和5年度（令和4年度対象）点検・評価について （総括意見）	P 7～11
令和5年度（令和4年度対象）養父市教育委員会評価調書	P 12～22
こども育成課	
・発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実を図る	
・多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培う	
・子どもを安心して育てられる環境づくりを進める	
教育課	
・「生きる力」を育む教育を推進する	
・子どもたちの学びを支える環境を充実する	
・安心安全と包摂的な学びの場づくり	
・主体的に生きるための学びと場の充実	
歴史文化財課	
・文化財等歴史文化遺産の保存と活用を進める	
生涯スポーツセンター	
・スポーツ環境づくりの推進	
学校給食センター	
・食育推進とともに、衛生管理を徹底し、安全、安心な学校給食を提供する	

## はじめに

本市では、「養父市教育大綱」等を踏まえて策定された「第3期 養父市教育振興基本計画」に基づき、「令和4年度 教育推進の重点」において各分野で重点目標を掲げ、保護者や地域の皆様のご理解やご協力をいただきながら引き続き「0歳からの一貫した教育環境づくり」の実現のための諸施策を推進しました。

乳幼児教育では、乳幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、乳幼児期の教育・保育は、すべての子どもが人間としてよりよく生きるための基礎を獲得するとともに、心身ともに健やかに成長する上で重要な役割を担っているととらえ、子どもの最善の利益を第一に考えながら、子ども一人一人の発達の特性を理解し、豊かな心情や物事に自ら取り組もうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度、さらに運動遊び等を通じた体づくりなど、「生きる力」の基礎を育む質の高い教育・保育に、家庭や地域と連携して取り組みました。また、「第2期 養父市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、引き続き子育て支援施策の充実を図り、「日本一子育てをしやすいまち」の実現に向け、子どもを安心して育てられる環境づくりを進めました。

学校教育では、小中一貫教育や、「そうあんくんの日」（子どもたちが、読書、家事、自主学習など自ら課題を見つけ、自主的・自律的な生活を送り「生きる力」を育む日）の取組等、これまでの本市の教育実践とウィズコロナ社会におけるICTの活用等新たな方法の融合を図ることにより、教育活動の一層の充実に取り組みました。新型コロナウイルス感染症について、感染拡大のリスクを可能な限り低減しつつ、子どもたちの心のケア等に配慮し、教育活動を行いました。

安心安全と包摂的な学びの場づくりについては、養父市が目指す誰一人取り残さない、学びがあふれる教育環境の実現に向けた教育のあり方とともに、子育てのあり方、学校施設等のあり方について「養父市教育のあり方検討委員会」を設置し、包括的に調査や審議を行いました。また、学校施設等の老朽化が進み緊急的な対応が増えていることから、良好かつ適正な維持管理を図るため、安全・安心を第一に効果的な維持修繕を行いました。

社会教育では、市民が学び続ける生涯学習社会の形成に向け、公民館、地域局を

はじめ、社会教育施設やスポーツ施設、記念館等が連携し、「生きる力」を生涯学ぶまちづくりを進めました。また、ふるさとの文化財を市民と共に保存継承することや、「元気な養父市」の実現をめざした生涯スポーツの振興なども併せ、養父市全体で「社会教育」を基盤とした「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を展開しました。

学校給食については、成長期の子どもたちの健康の保持増進、心身の発達と望ましい食習慣の形成を図るため、学校給食の充実と食に関する指導の充実とともに、衛生管理を徹底して安心・安全な給食の提供に努めました。

このたび取りまとめた「令和5年度 教育委員会の点検・評価報告書」は、令和4年度中に養父市教育委員会が取り組んだ主な施策・事業について、点検・評価を行ったものです。この点検・評価の実施と公表により、広く市民の皆様に教育委員会の活動状況や教育施策の実施状況をお知らせするとともに、「第3期 養父市教育振興基本計画」の基本理念である「「生きる力」を生涯学ぶまち」の実現に向け、より効果的な教育施策の推進に努めてまいります。

養父市教育委員会

## 教育委員会の点検・評価について

養父市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすため、令和 4 年度事務事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに、これを公表するものです。

### ※参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 1 趣旨

教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、課題や対応方法を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資するものです。

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たしていきます。

### 2 対象

点検・評価は、養父市教育委員会の「令和 4 年度教育推進の重点」の重点課題を基に、乳幼児教育・保育 3 項目、学校教育 2 項目、教育総務 2 項目、社会教育 3 項目、学校給食 1 項目を対象といたしました。

(乳幼児教育・保育)

- (1) 発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実を図る
- (2) 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培う
- (3) 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める

(学校教育)

- (1) 「生きる力」を育む教育を推進する
- (2) 子どもたちの学びを支える環境を充実する

(教育総務)

- (1) 安心安全と包摂的な学びの場づくり

(社会教育)

- (1) 主体的に生きるための学びと場の充実
- (2) 文化財等歴史文化遺産の保存と活用を進める
- (3) スポーツ環境づくりの推進

(学校給食)

- (1) 食育推進とともに、衛生管理を徹底し、安全、安心な学校給食を提供する

### 3 点検・評価の方法

(1) 評価項目 (目標)

上記の重点課題ごとの具体的な方策について評価項目にしています。

(2) 取組内容

項目ごとに実施した主な取組内容を示しています。

(3) 達成状況

A 目標が達成できた B 目標が概ね達成できた

C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった の4段階で評価しています。

(4) 担当課評価

担当課の評価・課題・改善の方策について示しています。

(5) 内部評価

自己点検・評価委員会で行った事務事業の点検・評価、達成状況の評価を示しています。

(6) 外部評価

外部評価委員会で行った検証・評価の意見及び達成状況の評価を示しています。

#### 4 学識経験者の活用

点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることにより、客観性を確保するものであり、養父市教育委員会外部評価委員会規則に基づき、5名の委員の方々から様々なご意見とご指導をいただきました。

##### (1) 養父市教育委員会外部評価委員会委員

役職名	氏名
委員長	政次敏博
副委員長	中川千文
委員	北村友子
委員	中島明日香
委員	守安弘昭

##### (2) 養父市教育委員会外部評価委員会開催日

- 第1回 令和5年7月31日
- 第2回 令和5年8月8日
- 第3回 令和5年8月21日

## 養父市教育委員会の令和5年度（令和4年度対象）点検・評価について

養父市教育委員会の令和5年度（令和4年度対象）の評価は、自己点検・評価委員会における評価では、33事業のうちA評価が22事業、B評価が11事業でした。外部評価委員会においてもA評価を22事業、B評価を11事業といたしました。

養父市教育推進の重点に基づき設定された評価項目（目標）について、各課・センターからの成果・達成状況・改善の方策等の説明をお聞きした後、質疑等を行い、外部評価委員会での協議を経て評価を実施いたしました。令和4年度は、コロナ禍の中、感染症対策を行いながら事業のあり方を見直すなど、with コロナの時代に合わせた各種事業が展開されています。とは言え、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、加えて社会情勢の変化にも対応しながら、各事業の遂行に尽力されている様子がうかがえました。このように、各施策について毎年目標を設定し、振り返りを行って次に生かしていく取組が行われていることに敬意を表したいと思います。

### 1 こども育成課の分野について

・発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実については、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な指針を目標に設定し、教育・保育課程の充実が図られています。また、こども園・保育所と小学校・義務教育学校が連携し、お互いが身近な存在になるよう相互にアプローチを行うことで、スムーズな接続が進められています。しかしながら、5歳児は5歳児なりの、発達段階に合わせた経験を積むことで次のステップへの力になるという考えも念頭に置いて、子どもたちの負担にならないような取組を進めていただきたいと思います。

多様性の時代の中で、多種多様な力を持った子どもたちそれぞれに対応した教育・保育の実践のための研修を実施し、また、関係機関とも連携しながらきめ細やかな支援が行われています。

・多様な学び・体験を通して自立と協同の態度を培う取組については、家庭との連携をとりながら、子どもたちの基本的な生活習慣の確立に努められています。また、季節の行事や日々の活動の中でも、発達段階に応じた協同する経験の機会を創出し、心が動く体験を増やして心が育つ活動に取り組まれています。

・子どもを安心して育てられる環境づくりについては、保育料の完全無償化により、「子育てしやすいまち」として手厚い支援が先進的に実施されています。充実した支援について積極的にPRし、子育て世代の定住にもつなげていただきました。

いです。

完成の遅れはあったものの、新たな子どもの居場所となる「子ども第三の居場所」が整備され、今後の有効かつ積極的な活用が望まれます。

フォローが必要な家庭に対して、関係部署とも連携しながら 18 歳を超えても支援が途切れてしまわないような手立てについても検討していただきたいです。

## 2 教育課の分野について

・「生きる力」を育む教育の推進については、養父市の特色ある教育として目玉となる多くの施策があり、先進的に取り組まれています。評価については養父市のこどもたちの「知・徳・体」の状況についても分かるような評価内容にしていただきたいと思えます。

義務教育学校の教育活動については、乗り入れ授業が行われることで様々な良い効果が生まれており、充実した取組が行われています。今後はメリット・デメリットについて検証しながら、他校へも拡充することが望まれます。

演劇ワークショップや青谿書院塾等、体験型の活動や地域に根差した教育活動により、ふるさと意識が醸成されている様子がうかがえます。部活動の地域移行については課題もあるかと思えますが、地域の指導者や学生ボランティアに入っただくことで、より良い環境の中で経験を積むことができ、地域移行の趣旨に合った活動が進められています。

子どもたち一人ひとりのニーズに対応した教育を行うため、通級指導を行う教員や指導補助員を増員し、きめ細かく適切な指導・支援が行われ、特別支援教育の充実が図られています。個別のニーズは増加傾向にありますので、関係機関とも連携しながら更なる充実が望まれます。

・子どもたちの学びを支える環境の充実については、「安心・安全」の確保やいじめ・不登校の防止、教職員の資質向上や働き方改革等、多岐にわたって取り組まれています。

不登校については、コロナ禍で増加傾向にありますが、子どもサポート室の開所時間の延長等、体制の拡充が図られています。関係機関が連携し、多くの大人目の目で子どもたちを見守っていただきたいと思えます。

教職員の働き方改革については、スクール・サポート・スタッフや、G I G A スクールサポーターの配置により、教職員の業務をサポートすることで、負担軽減が図られています。これまで手が付けられていなかった部分の改革が行われており、今後も業務改善を推進していただきたいです。

・安心安全と包摂的な学びの場づくりについては、教育委員会の会議運営や、教

育のあり方検討委員会の運営、学校施設の維持管理等、教育施策の根幹となる会議の開催や、安心・安全で効果的な教育環境の整備が行われています。

教育委員会の会議運営については、事前協議を開催する等、会議の円滑化と合わせて情報や課題について積極的に共有している様子がうかがえました。

養父市教育のあり方検討委員会では、養父市がめざす誰一人取り残さない学びがあふれる教育環境の実現のため、有識者による検討・協議が進められ、まちづくりにもつながる内容の答申が行われました。教育の今後はまちの今後に直結しますので、答申を受けての事業の実施についても随時市民に向けての周知をしていただきたいと思います。

学校施設の維持管理については、緊急的な事案にも対応しながら、計画的に実施されている様子がうかがえます。何よりも子どもたちの安心・安全で過ごしやすい環境を最優先に考えて維持修繕の推進をお願いします。

I C Tの活用については着実に進んできており、G I G Aスクールサポートセンターの設置等、活用のための支援体制が整えられています。タブレット端末が整備されたことで、オンライン授業や授業の中での利用、長期休業中の持ち帰り等、多様で新たな学びが提供されていることが見て取れました。

・主体的に生きるための学びと場の充実については、市民への学習や活動の場の提供や、学校・家庭・地域が連携した活動の支援、「二十歳のつどい」の実施等、学びの場づくりのための多彩な事業が展開されています。

市P T Aの活動支援については、コロナ禍でフォーラムをオンライン開催して各家庭で視聴できるようにするなど、画期的な取組が行われています。また、子連協が主催するドッジボール大会は中止となりましたが、子どものニーズと保護者のつながりづくりのためにも、代替事業についても検討していただきたいと思います。

「二十歳のつどい」の開催については、成人年齢が18歳に引き下げられたため式典の名称の変更等が行われ、開催にあたっては感染症対策を講じながら、なごやかで落ち着いた雰囲気での式典が挙行されました。18歳の新成人に向けてもお祝いのメッセージを送るなど、新たな取組として対象者から喜ばれています。

### 3 歴史文化財課の分野について

・文化財等歴史文化遺産の保存と活用については、八木城跡殿屋敷地区の整備が着実に進んでおり、今後の積極的な活用が望まれます。また、名草神社の完成式と記念イベントは、ざんざか踊りの奉納や大学生による演劇の上演が行われるなど、地域や大学とも連携して実施され、多くの方が参加されました。養父市の宝であるすばらしい文化財を多くの方に知っていただき、足を運んでいただくよう、

積極的なPRをお願いします。

市民の手によって保存・継承されている文化財の維持や活動の継続については、高齢化や人口減少等の昨今の情勢により活動が難しくなっている状況にありますが、地域の伝統芸能や文化財が失われることのないよう、継続して支援する必要があります。

#### 4 生涯スポーツセンターについて

・スポーツ環境づくりの推進については、スポーツ活動と健康づくりの支援及びスポーツ施設の適正な維持管理に努めておられます。

新型コロナウイルス感染症の影響による規模の縮小等があったものの、当初の計画どおりに各種大会及びスポーツ教室が実施されており、感染症対策を講じながら、年齢やライフスタイルに応じたスポーツ活動の支援が行われています。

市の管理するスポーツ施設については、建築後30年以上経過している施設もある中で長寿命化に取り組む等、適切に管理されています。市民の安全・安心なスポーツ環境として、今後も利用が継続できるよう整備をしていただきたいと思います。

ワールドマスターズゲームズの開催が2027年まで延期されたことで、機運の維持が難しい状況にありますが、学校行事等に取り入れていただくなど、子どもたちにも体験させることで興味を持ち、市全体で開催を楽しみにできるような取組をお願いします。

#### 5 給食センターについて

・食育の推進とともに衛生管理を徹底した安全・安心な学校給食の提供については、学校給食の充実と教育活動を通じた食育及び施設の適正な管理運営に努めておられます。

食物アレルギーへの対応や休校等による量の調整、食育指導など、学校や家庭としっかり連携・協力しながら進めている様子が見え、日本一にもなった養父市の、おいしくて栄養のある給食を楽しく食べて育ったということに子どもたちが誇りを持てるよう、今後も継続して取り組んでいただきたいと思います。

施設・設備の維持管理や食中毒及び異物混入の防止等、厳しい管理の求められる環境で、徹底した点検と衛生管理のもと、適正な管理・運営が行われています。地産地消の推進や有機野菜の使用については関係部局と連携しながら推進を図っていただきたいと思います。

## お わ り に

令和4年度は、約3年間のコロナ禍を経て、withコロナで様々な事業が展開されました。また、昨今の社会情勢や気象変動もある中で、その時々でより良い方向を模索し、実現していく1年となりました。今回、外部評価を行うにあたり、教育施策の分野の幅広さ、多種多様な事業が行われているということを改めて知る機会となりました。教育委員会の事業について、市民に向けてもっと「知る機会」を創出することが必要であると感じました。また、どの分野においても非常にきめ細かく、「こどもまんなか」で、養父市の子どもたちを大切に育てていこうとする気持ちが非常によく伝わりました。しかしながら、少子高齢化が進む中で、地域が疲弊している状況を鑑みると、これからは地域の力をつけていくことも重要な課題であると考えられます。これらの教育施策が、子どもたちが大人になって大きく花開くよう、社会教育の分野にも更に力を入れていただきたいと思えます。

令和4年度、「養父市教育のあり方検討委員会」から今後の養父市の教育について多岐にわたる答申が行われました。養父市の教育の現状について振り返り、課題を共有して、解決に向けて多角的に検討する機会が持たれたということは、将来の養父市を考える上で非常に意義があると思われれます。今後も検証しながら内容を高めていっていただきたいと思えます。

最後に、「不易流行」という言葉があります。教育においても、ICTの活用や社会情勢の変化への対応等、「流行」を必ず追わなければなりません。学力を身に着けることや基本的な生活習慣などの昔ながらの「不易」の部分も大切にしなければなりません。このことを根底に置いて、地に足を付けて、養父市の教育を進めていただきますようお願いいたします。

養父市教育委員会外部評価委員会

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実を図る
-------	-----------------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 遊びを通じた総合的な指導を行う中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育・保育課程の充実を努め、質の高い学びを育む。	①幼児理解に基づく、指導計画・環境構成・活動の展開等について実践・ふり返り・改善を図る。 ②園内外の研修等に積極的に参加し、専門技術を学び、教育・保育に活かす。 園内研の実施 やっぷー研修 2講座 歳児別研修会 各歳児 年1回 保育協会等研修会に参加 キャリアアップ研修 園長・主任(主幹)研修 等
2 こども園等と小学校及び義務教育学校の連携を積極的に進め、子どもの発達を長期的な視点でとらえ、幼児教育と学校教育の円滑な接続を図る。	①5歳児を中心とし、小学校及び義務教育学校との交流を実施する ②小学校及び義務教育学校と密な関係を作り、子どもたちの様子について情報等を共有する。
3 人権感覚を磨き、人権に配慮した教育・保育を基礎に、インクルーシブ教育・保育について研修を深め、「一人一人を大切にできる教育・保育」を実践する。	①インクルーシブ教育・保育について講師を招いて研修会を行う。 ②公開保育研修会を2～5歳児で行う。 2グループ 計11回 ③0・1歳児研修会を行う。 ④心理士・家庭相談員・特別支援学校・エスポワールこじかななど関係機関との連携を図る。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○園内外での研修で知識を広げ、幼児理解を深め、実践・ふり返り・改善のPDCAサイクルにより教育・保育の質の向上を図った。 ○計画通り研修を実施し、保育・教育に活かすことができた。 各園で園内研修を実施(月2回程度) やっぷー研 参加者1回目62名、2回目61名 歳児別研修会 各歳児 年1回 保育協会研修会参加 実技研修会、職員研修会1月14日 公立園長等研修会、キャリアアップ研修会 園長・主任(主幹)・保育士研修
○5・5交流をはじめとする小学校との交流を実施、また、入学時の引継ぎ、5歳児発達相談時の小学校職員の参加などにより、子どもたちの情報を共有することで、幼児教育と学校教育の円滑な接続を図った。
○6月22日リモートによりインクルーシブ教育について研修会を開催し、インクルーシブ教育・保育に対する理解を深めた。(11園参加) ○公開保育研修会2グループに分かれ10回実施し0・1歳児研修会「一人一人の発達に応じた乳児保育」を開催した。市内全てのこども園・保育所が同じテーマに沿って研修し、公開保育をすることで、各園所内での研修も深まり、保育士・保育教諭の能力向上につながった。得た知識や技術を保育の中に活かし、教育・保育の充実を図ることができた。 ○巡回相談・5歳児発達相談により、保育者や保護者と連携し、個に応じた適切な支援につながった。また、必要に応じてエスポワールこじかななど専門機関との連携も図り、家庭・こども園との一貫した支援を行った。

課名
こども育成課

### 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について共有し、指導計画等についても実践・ふり返り・改善が図られている。計画どおりに研修を実施し、また積極的に参加することで目標を達成することができた。	A	国の示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の具体的な指針を目標に設定し、教育・保育の充実を努めている。コロナ禍での研修のリモート開催により、より参加しやすい環境となり、通常の保育をしながら研修にも積極的に参加している。研修の成果については、すぐ実践できるものは園内に広げ、また一つずつ研修を積み重ねることで職員の力になっている。	A
こども園・保育所と、小学校・義務教育学校の円滑な接続のため、交流事業等を積極的に実施し、情報の共有と連携を密にしている。	A	小学校・義務教育学校が身近な存在になるよう、相互にアプローチを行っている。5歳児はその年齢の経験の積むことでスムーズに次のステップへつなげる力を蓄えるということも念頭に置いて、背伸びさせすぎることなく進めていきたい。	A
「一人一人を大切にできる教育・保育」の実現のため、インクルーシブ教育・保育についての研修会や公開保育研修会を実施し、保育士・保育教諭の能力の向上や教育・保育の充実を図っている。巡回相談や発達相談等により、保護者や保育者、関係機関と連携し、個に応じた適切な支援を実施した。	A	多様性の時代の中で、多種多様な力を持った子どもたちそれぞれに応じた教育・保育が実践できるよう、研修も深めており、きめ細やかな支援が行われている。それぞれの個性を見取ることもないような力を保育者もつけていただき、また、「みんな違っていい」という視点を持って保育・教育を行っていただきたい。	A

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	2 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培う
-------	---------------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 こども園等と家庭・地域が連携して、決まりの大切さや、してよいこと・よくないことに気づき、考えながら行動するなど、基本的な生活習慣や態度の確立に努める。	①生活点検表などを活用し、個々の生活習慣を知る。 ②個別懇談や育児相談などを通し保護者との共通理解を深め、子どもたちの成長につなげる。 ③親子で育む「5つの生活習慣」の推奨。
2 協同する経験を通して、人とかかわる力や伝え合う力の育成を図る。	①子どもたちの願いや考えを受け止め、子ども同士が共通の目的を持ち、工夫したり協力したりする活動を展開していく。 ②生活の中で心が動く体験をし、感じたことや考えたことを自分なりのことばや様々な方法で表現したり、友だちや保育者の話を聞いたりすることを通して、伝え合う楽しさを味わえるようにする。
3 地域の幼児、児童、高齢者との交流や地域行事への参加を積極的に進め、多様な経験を通して、心身の調和の取れた発達を促す。	①地域ごとでの5歳児交流会の実施 ②小学校との交流 ③地域の方等との交流 ④小動物の飼育や野菜や花の栽培
4 絵本の読み聞かせを通じ、想像力や聞く力を育てる。	①年齢に合わせた絵本の読み聞かせを毎日行い、遊びにも取り入れていく。 ②絵本の貸し出しを行い、家庭での読み聞かせも促していく。

## 3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○お便りなどによる啓発、生活点検表の活用・育児相談などを通し、生活習慣の大切さを知らせてきた。保護者アンケートの結果からは、多くの家庭で生活習慣が身につけてきたと回答されている。ただし、家庭により習慣が大きく違い、今後も生活習慣について発信していく必要がある。 ○子どもとの信頼関係を築き、その中で決まりの大切さやしてよいこと・悪いことに気づけるよう援助した。 ○個別懇談や育児相談の実施により、家庭との共通理解を深めることができた。
○子どもの発達に合わせ活動内容や環境を整え、子どもたちが、自分の持ち味を発揮し、お互いの良さを認め合う関係ができるよう工夫した。 ○年齢・発達にあった応答をする中で、発語・会話や表現することが楽しいと感じられるよう援助し、相手に伝えようとする力を育てた。
○養父・大屋ブロック5歳児交流会、八鹿ブロック5歳児交流会(リモート)、各園所での小学校との交流会の実施、小動物の飼育や野菜・花の栽培などの活動を通し、心身の調和の取れた発達を促すことが出来た。(R5年度より開宮こども園もどちらかのブロックに参加する。) ●地域の方との交流会は、実施できなかった園があった。交流の仕方について検討の必要がある。
○年齢に合わせた絵本の読み聞かせを行い、子どもたちとの信頼関係を築くとともに、聞く力や想像の世界を広げ心の豊かさにもつながった。絵本の貸し出しを実施し、家庭での読み聞かせの大切さも知らせていった。

課名
こども育成課

## 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった  
 D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
子どもたちの基本的な生活習慣の確立のため、生活点検表の活用等によりこども園等と家庭が連携して取り組んでいる。親子で育む「5つの生活習慣」や、「そうあんくんの時間」等、日常的な取組として定着している。	A	こども園等と家庭が連携し、子どもたちの基本的な生活習慣の確立に努めている。お便り等、一部デジタル配信されているが、デジタルとアナログそれぞれのメリットを生かして、保護者と園の双方の利便性を向上させていただきたい。	A
発達に合わせた多様な活動を行うことで、子どもたちがそれぞれに力を発揮し、保育者がそれを伸ばすためのアドバイスを行うことで伝え合う楽しさを味わう力の育成に努めている。	A	季節の行事や日々の活動の中で、子どもたちが話し合っ決めて決める等、協同する経験の創出に努めている。行事や日常の活動の中で心が動く体験を増やし、心が育つ活動に取り組んでいる。	A
地域ごとの交流会の実施や各園所での様々な交流会の実施により、多様な体験の場を提供することができた。 コロナ禍により、交流会が開催しにくい部分もあったが、リモートによる開催等の工夫が見られた。これを機に開催の意義等についても見直し、よりよい方法を模索していく。	A	ブロックごとの5歳児交流会や、高齢者団体との交流会により、様々な体験を通して発達を促すことができています。リモートと対面それぞれの特長を生かし、交流を継続していただきたい。	A
絵本の読み聞かせにより聞く態度の育成だけでなく、新たな発見を遊びや活動につなげることで絵本を通じて心の豊かさを育成することができた。	A	絵本の読み聞かせについてはどの園所でも力を入れて取り組んでおり、聞く力の育成とともに、信頼関係の構築にもつながっている。	A

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	3 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める
-------	--------------------------

## 2 評価項目 (目標設定)

評価項目 (目標)	取組内容
1 子育て支援の充実	①保育料無償化の実施 ②子育て応援給付金の支給 ③多様な保育ニーズに対応した事業 (延長保育、一時預かり等) の実施
2 安心・安全な教育保育施設の整備・管理	①「子ども第三の居場所」の整備 令和5年4月の運営開始に向け施設整備と運営準備を進める。 ②新型コロナウイルス対策の徹底 ③公立施設 (認定子ども園、保育所、学童施設) の適正な維持管理
3 フォローが必要な家庭に対する支援	①要保護児童対策地域協議会の設置 代表者会議の開催 2回 実務者会議の開催 4回 個別支援会議の開催 随時 ②家庭児童相談員による要支援児童及び保護者に対する相談・支援 ③すこやか相談、子ども園等巡回相談の実施 すこやか相談 年間100件 巡回相談 各園1回以上

## 3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <p>○達成した</p> <p>●達成できなかった</p>
<p>○保育料の完全無償化を継続実施し、子育て世代の経済的負担軽減に資することが出来た。</p> <p>対象者226人 影響額33,203千円</p> <p>○子育て応援給付金の支給を実施し多様な子育てに対する支援を行った。</p> <p>対象者255人 支給額14,870千円</p> <p>○18歳までの子供を養育している保護者に、子ども1人当たり20,000円の「子育て世帯家計支援臨時給付金」支給し、物価高騰により家計に影響を受けている子育て世帯を支援した。</p> <p>対象者1,684人 支給額61,520千円</p>
<p>●アスベストや埋設物など当初想定していなかった事案が発生したことなどにより、年度内に施設整備を完成することが出来なかった。</p> <p>○臨時休園を延べ22回行うこととなったが、園内での大規模なクラスターは発生させることなく感染拡大防止に努めることが出来た。</p> <p>○当初予定していた広谷子ども園厨房機器更新、大屋子ども園通信機器更新などを予定どおり完了し、その他緊急に対応が必要な修繕等を適宜行い施設の適正な維持管理に努めた。</p>
<p>●代表者会議はコロナ禍の影響により、予定していた回数の開催が出来なかった。代表者会議1回 (前年度0回)、実務者会議4回 (前年度3回)、個別支援会議5回 (前年度8回)</p> <p>○支援が必要な家庭に対し家庭児童相談員による訪問・相談支援を行った。相談件数293回 (前年度227回)</p> <p>○巡回相談を実施し、発達の偏りや遅れが目立つ児については、すこやか相談の利用を促し、すこやか相談では、個別検査や他機関紹介等を行い、保護者の不安解消を行った。</p> <p>・巡回相談 39回 (前年度50回)</p> <p>・すこやか相談 154回 (前年度126回)</p>

課名
こども育成課

## 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

## 4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
保育料の完全無償化や子育て応援給付金等、市独自の子育て支援施策が充実しており、子育て世代の経済的負担の軽減に寄与している。 また、多様な保育ニーズに対応し、延長保育や一時預かり等の事業も継続して実施している。	A
「子ども第三の居場所」については、整備上の想定外の事案の発生により、4月の開所に間に合うよう整備することができなかった。 新型コロナウイルス感染症対策については短期間の休園を取り入れることで感染拡大を最小限に抑える取組を実施した。各園での感染状況の把握について、私立園や学校との共有が必要である。	B
要保護児童対策協議会については、コロナ禍で計画どおり開催ができない会議があったものの、関係機関とは連携を密にしている。 相談支援の効果や成果については目に見えにくい部分があるが、相談員が積極的に家庭訪問や相談業務を実施し、必要な支援を行っている。また、園や学校等、関係機関とも連携しながら支援している。	A

## 5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
副食費や通園バスの利用料、延長保育料も含む保育料の完全無償化により、子育て世代への手厚い支援が先進的に実施されている。充実した支援について積極的にPRし、移住・定住者の増加にもつなげていただきたい。	A
完成の遅れはあったものの、子どもの居場所となる新しい施設が整備され、今後は有効に、また積極的に活用していただきたい。 施設設備の維持管理については、一定の年数を経過したものについては随時更新する等、業務に支障がないよう計画的な更新に努めている。	B
充実した相談体制や、関係機関とも情報を共有し、きめ細やかな支援が行われていることが見て取れる。 組織の改編やたくさんの選択肢がある中で安心して相談できる体制を継続していただき、また関係部署とも連携しながら18歳を超えても支援が途切れてしまわないような手立てについても検討していただきたい。	A

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 「生きる力」を育む教育を推進する
-------	--------------------

## 2 評価項目(目標設定)

評価項目(目標)	取組内容
1 魅力と活力ある学校づくりを推進する。	①小中一貫教育、義務教育学校の教育活動の充実を図り、学力の向上を図る。 ②小規模特認校等特色ある教育活動を展開する。 ③ICTを活用した教育を推進する。
2 地域とともにある学校づくりを推進する。	①コミュニティ・スクールを核とした学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動を展開する。 ②兵庫型「体験教育」、ふるさと教育、キャリア教育、SDGsを踏まえた教育活動を充実する。 ③部活動の段階的な地域移行を進展させる。
3 児童生徒一人一人に応じた教育と支援の充実を図る。	①特別支援教育の充実を図る。

## 3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○義務教育学校では、前期・後期課程の相互の乗り入れ授業により、後期課程の免許外担任の解消前期課程の教科担任制が実現した。 ●義務教育学校の成果の他校への還元が十分でなかった。R5年度、大屋小・中学校で乗り入れ授業を予定している。 ○小規模特認校の特色ある教育等に魅力を感じ、新規の就学者が4人あった。 ●小規模特認校の複式学級の解消ができなかった。 ○教科の学習(小・中)、プログラミング教育(中)の教材を導入し、タブレット端末の活用を図った。 ●デジタル教科書の活用が不十分だった。
○コミュニティ・スクール研修会を1回実施し、委員の資質向上を図った。 ●協議会によって活動状況に差がある。R5年度、地域コーディネーターを2人モデル配置し、活動の充実を図る。 ○新たに、演劇ワークショップ、青谿書院塾をすべての小・中・義務教育学校で実施した。 ●山の学校(氷ノ山登山)が実施できなかった。 ○部活動検討会議を2回実施するとともに、部活動指導員を3人から7人に増員した。 ○学生ボランティア3人が部活動指導を行った。 ●合同部活動の試行ができなかった。
○通級指導を行う教員を4人から5人に増員し、指導の充実を図った。 ○指導補助員を11人から13人に増員し、要支援児童生徒の支援を行った。 ●各学校の特別支援教育コーディネーター連絡協議会は2回行ったが、研修が不十分であった。

課名
教育課(指導グループ)

## 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった  
 D目標が達成できなかった)

## 4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
義務教育学校の教育活動は、乗り入れ授業によって免許外担任の解消や教科担任制が行われ、定着して充実した活動が展開されている。義務教育学校の取組については、情報交換にとどまらず、広く発信していく必要がある。 デジタル教科書の活用については、メリット・デメリットを考慮し、デジタルとアナログのバランスをとりながら進めていく。	B
コミュニティ・スクールを核とした学校づくりについては、委員を対象とした研修会を開催する等、連携・協働した教育活動のための取組を支援した。地域コーディネーターの配置により更に活動の充実を図り、協議会ごとの活動状況の差を無くす取組を進める。 ふるさと教育・キャリア教育等では、全ての学校で新たに青谿書院塾や演劇ワークショップを実施する等、充実した教育活動を行っている。	A
通級指導を行う教員や指導補助員の増員により、支援を必要とする児童生徒の指導の充実やきめ細やかな支援を行っている。また、特別支援学校やこども育成課等、関係機関との連携を密にしながら特別支援教育の充実を図っている。	A

## 5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
小中一貫教育の充実については、6年生登校等の実施により、中1ギャップの緩和に寄与している様子がうかがえる。義務教育学校の教育活動については、乗り入れ授業が行われることで様々な良い効果も生まれており、今後も工夫しながら継続していただきたい。 デジタル教科書については実証実験中ということなので、今後の効果的な活用を期待する。	B
演劇ワークショップや青谿書院塾等、体験型の活動や、地域に根差した教育活動により、ふるさと意識の醸成に取り組んでいる。 部活動指導員として地域の指導者や学生ボランティアに入っただくことで、良い環境で経験を積むことができおり、地域移行についても積極的に進めていただきたい。	B
子どもたち一人ひとりのニーズに対応した教育を行うため、通級指導を行う教員や指導補助員を増員し、きめ細かく適切な指導支援が行われている。 個別のニーズは今後も増えていくことが予想され、指導補助員の役割が大きいと思われるため、更に充実させていきたい。	A

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	2 子どもたちの学びを支える環境を充実する
-------	-----------------------

## 2 評価項目 (目標設定)

評価項目 (目標)	取組内容
1 「安心・安全」の確保に向けた環境整備等の充実を図る。	①新型コロナウイルス感染症対策を講じながら教育活動を継続する。 ②通学路安全プログラムに基づく通学路の安全確保を図る。 ③学校防災マニュアルに基づく防災教育を実施する。 ④情報モラル教育の充実を図る。
2 いじめ・不登校等の防止に向けた取り組みを推進する。	①いじめ防止基本方針に基づくいじめの未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ②不登校の未然防止と支援の充実を図る。 ③教育相談体制の充実を図る。
3 教職員の資質・能力の向上と働きがいのある環境づくりを推進する。	①教職員研修の充実を図る。 ②教職員の働き方改革の推進を図る。

## 3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等
○達成した ●達成できなかった
○すべての学校のすべての学年で標準授業時数に達する見込みである。 ○感染症対策を徹底し工夫して学校行事を実施した ○通学路の合同点検の実施、対策検討会議での検討により、安全確保に努めた。 ●対策が来年度以降になる箇所がある。 ○中学校3校で防災講座を実施したり、広谷小学校で防災教育の授業実践を3回行ったりして防災の意識を高めた。 ○情報モラル教材を小5・6に導入するとともに、八鹿青溪中学校で講演会を行った。また、SNSルールポスターを新入生に配布し、啓発に努めた。
○いじめ認知件数が小25件、中47件と、昨年度より減少した。重大事態はなかった。 ○いじめ対応マニュアル等を活用し、未然防止、早期発見、早期対応に努めた。 ●不登校の人数が小16人、中23人と、昨年度(小11人、中16人)より増加した。 ○子どもサポート室の開所時間を延長し、相談体制の拡充に努めた。登録人数11人 ○子どもサポート室の通所補助により、利便性を図った。申請数10人 ○スクールソーシャルワーカーを各中学校区に配置し、相談体制の充実を図った。件数 小9件、中14件
○全教職員研修を1回実施し、生徒指導について研修を深めた。 ○初任者研修を3回実施し、養父の教育について研修を深めた。(池田草庵先生についての講話、氷ノ山登山、スキー実習) ●超過勤務が45時間以上の教職員がいる。 5月65人 6月81人 7月47人 8月4人/191人 ○すべての学校にスクール・サポート・スタッフを配置したり、GIGAスクールサポーターを派遣したりして、教職員の業務をサポートした。

課名
教育課 (指導グループ)

## 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった  
 D目標が達成できなかった)

## 4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
新型コロナウイルス感染症対策を講じながら教育活動を継続し、授業時間の確保に努めた。また、実施の方法を工夫しながら学校行事も行うことができた。 通学路の安全確保については、危険度の高い箇所から順次対策に着手している。 情報モラル教育については、家庭とも連携しながら、情報モラル教材の活用と併せて、各学年で指導・啓発を行っている。	A
いじめ・不登校等の防止に向けた取組については、学校がアンテナを高くし、積極的認知に努め、未然防止に取り組んでいるが不登校についてはコロナ禍以降、増加傾向にある。学校に来られるような方策について検討する必要がある。 スクールソーシャルワーカーの配置等により、相談体制の充実を図っている。今後は相談しやすい環境を整えることも必要である。 今後も常に最善の対応を目指して取組を推進していく。	B
講師を招いた全職員研修を開催し、生徒指導についての研修を深めることができた。また、初任者研修では心と体の研鑽を深める、内容の充実した研修を行うことができた。 教職員の働き方改革については、ICTの活用等、少しずつ業務改善が進められているが、更なる意識改革が必要である。	B

## 5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
コロナ禍の中で、感染拡大のリスクを抑えながら工夫して行事を実施し、教育活動を継続している。 また、通学路の安全点検や防災マニュアル、情報モラル教育等、「安心・安全」の確保のための環境整備や啓発等を積極的に実施している。	A
いじめの認知については、各学校で未然防止、早期発見・対応に努めている様子がうかがえる。 不登校については、様々な要因によりコロナ禍以降増加しているが、子どもサポート室の開所時間を延長する等、支援の充実が図られている。学校やサポート室、関係機関が連携して、多くの目で子どもたちを見守る体制を継続していただきたい。	B
全職員研修や初任者研修を対面で実施することができたことは評価できる。 教職員の働き方改革については、スクール・サポート・スタッフやGIGAスクールサポーターの配置により、業務の軽減が図られている。また、これまで手が付けられていなかった部分の業務改善が行われており、今後も更に改善を進めていただきたい。	B

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	安心安全と包摂的な学びの場づくり
-------	------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 教育委員会の会議等運営を行い、教育行政の推進を図る。	①月1回の定例会議を開催し、教育行政に必要な議案の審議等を行う。 ②事務局として議案等を精査し議事進行の調整を図る。 ③所管する会議の日程調整や議事録の作成を行い公開することで開かれた教育委員会をめざす。
2 教育委員活動の支援	①学校園、教育施設の訪問を積極的にを行い教育現場の現状把握を進める。 ②市が実施する施策や教育行政に関する研修を実施し教育委員として必要な情報を提供、共有していく。 ③必要に応じて総合教育会議の調整を行い、教育課題について市長と協議し、相互連携を進める。
3 養父市教育のあり方検討委員会の運営、調整を図る。	養父市がめざす誰ひとり取り残さない学びがあふれる教育環境の実現に向けた教育のあり方とともに、子育て、学校施設等のあり方について委員会とともに調査、検討を進める。 ①教育のあり方検討委員会の設置、運営を進める。全7回(予定)会議を開催し、年度内に答申を行う。 ②審査に必要な資料や議事録の作成を行い会議の運営を支援するとともに答申内容を検討していく。

## 3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○達成した</li> <li>●達成できなかった</li> </ul>
<p>○毎月の定例会の実施とともに事前協議を行い会議の円滑化、活性化を図った。 また、教育のあり方検討委員会での協議事項や決定事項など逐次報告を行い共有を図った。 ○関係する規則等の制定や改正について提案し、慎重審議の上の承認を経て、公布を行った。 ・議案等審議(6件)(R3年度30件) ○事前資料の配布について見直しを行い会議の1週間前には送付するよう努めた。</p>
<p>○学校園への訪問はコロナ前の状態に戻り授業等視察、視察後には指導助言や意見交流を行い学校園の課題や現状を把握することができた。 ・学校訪問 6校 (R3年度4校) ・自然学校 1日 (R3年度1日) ・校長面談 期中期末2回5日 (R3年度2回6日) ・学校園入学式 各1名 (R3年度自粛) ・学校園卒業式 各1名 (R3年度各1名) ・運動会 来賓として訪問は無し (R3年度自粛) ○総合教育会議は直面する教育課題について市長と協議、意見交換を行い今後の方向性など確認することができた。2回実施 (R3年度1回)</p>
<p>○4月から12月まで7回の会議の他、研修会、学校視察を行い12月に答申を受けた。 ○会議には熟議を取り入れ、義務教育だけでなく保育を含めた子育てのあり方、高校教育、市民の学びに至るまで幅広く多様な意見が出され、それらが反映された答申となった。 ○委員の求めに応じた資料の準備や会議の記録、会議後の振り返りを行うなど、運営に従事した。今後は、内容を具現化するため実施計画を定め取組をすすめていく。</p>

課名
教育課 (総務グループ)

## 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった  
D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
定例会議に合わせた事前協議の実施や資料の事前配布等による円滑な会議運営や、積極的な情報共有による会議の深化、活性化を図っている。	A	定例会議前の事前協議で議事の内容等について共有するなど、会議の活性化や円滑な議事運営が行われており、教育行政の推進が図られている。	A
コロナ禍を経て、学校園等の行事や各種研修会等も従来の状況に戻りつつある中で、積極的に現場に足を運び現状把握に努めるとともに、昨今の教育を取り巻く課題等についての研修を深めている。	A	学校園への訪問はコロナ禍以前の状況に戻っており、授業等の視察や指導助言、意見交流が行われている。 総合教育会議では市長と教育課題について共有し、協議しながら相互の連携を深める取組が進められている。	A
養父市のめざす教育環境の実現のための方策について、多方面の有識者が集い、意見を集約した多角的な形の答申となっている。 今後は多岐にわたる答申内容の実現に向けて進めていくとともに、市民への情報提供を行って周知を図っていく。	A	養父市の今後の教育のあり方について、有識者による協議が行われ、まちづくりにもつながる答申が行われた。教育の今後はまちの今後に直結するので、今後の実施状況についても随時周知をお願いしたい。	A

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	安心安全と包摂的な学びの場づくり
-------	------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
4 学校施設等の良好かつ適正な維持管理に努め、安心・安全を第一に効果的な施設維持修繕を行う。	<p>①学校施設の老朽化が進み、緊急的な対応が増える中、事故の未然防止と緊急対応の体制を図る。</p> <p>②長寿命化改修(部位修繕)として課題であったトイレの洋式化、教室等の照明LED化工事等を順次薦める。 (R4実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿南小(外壁、トイレ、防水)</li> <li>・八鹿小(トイレ、教室等LED化)</li> <li>・養父小(トイレ、教室等LED化)</li> <li>・八鹿青溪中(体育館LED化)</li> </ul> <p>③そのほか、学校運営に必要な不可欠な修繕、備品等、効果的に整備を進める。</p>
5 ICTを活用した新しい学びへの支援を行う。	<p>①教育情報化計画に基づき新しい学びに適したICT環境の整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務系パソコンの更新</li> <li>・指導者用タブレットの購入</li> <li>・GIGAスクールサポートセンターを設置しICTに関する問題に迅速に対応する。</li> <li>・デジタル教材を積極的に取り入れタブレットの効果的な利用を進める。</li> </ul> <p>②学校ホームページのリニューアルを実施する。共通仕様のホームページの共通仕様のホームページにすることで統一化し魅力ある学校づくり、PRにつなげる。</p>

3 担当課評価
<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○達成した</li> <li>●達成できなかった</li> </ul>
<p>○学校施設の維持管理に係る修繕は緊急対応の事案が多発し特別枠の修繕等が遅れがちになったが年度内には終了することができた。</p> <p>●長寿命化改修については、設計業務の進捗管理がうまく行えず遅れが生じるとともに、結果的に予算不足となり、宿南小学校分が先送りとなった。その他の学校については年度内に終了するが、今後は長期休業中の工程となるよう努める。</p> <p>○学校からの求めに応じ、学校運営に必要な修繕や備品については優先順位を見極め、公正かつ効果的に整備するよう努めた。</p>
<p>○ICTに係る備品整備は予定どおり行うことができた。整備後の学校へのサポートも実施しスムーズに活用できるよう努めた。</p> <p>○GIGAスクールサポートセンターを設置し学校のICTに関わる困りごとや研修対応など行った。当初は学校により活用に偏りが見られたため要請や問い合わせのみの対応だけでなく周知や定期訪問を行い利用促進を図った。</p> <p>ICTを活用した授業への取組が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問回数106回(3月末見込)</li> </ul> <p>○各学校でばらつきがあったホームページを同じ仕様で統一することができた。仕様の選定には更新する先生が使いやすく、保護者や市民が見やすいものとして、実際のソフトのデモを行い選定した。</p>

課名
教育課(総務グループ)

### 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった  
D目標が達成できなかった)

4 内部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況
<p>学校施設の維持管理については、緊急的な事案に対応しながら計画的な修繕も実施しなければならぬため、予算の組み方にも工夫が必要である。</p> <p>また、物価高騰による予算の不足等、予測困難な状況ではあるが、必要な修繕については適正な実施に努めている。</p> <p>トイレの洋式化等については、教育環境の向上に係る重要な要素であるため、順次進めていく必要がある。</p>	B
<p>ICTを活用した新しい学びの環境整備のため、新たにGIGAスクールサポートセンターを設置し、利用についての周知や定期訪問を実施することで、各学校でのICTの更なる活用を支援している。</p> <p>学校のホームページの仕様が統一されたことで、学校ごとの個性は残しつつ、とても見やすくなっており、魅力ある学校づくりのPRを積極的に行っている。</p>	A

5 外部評価	
外部評価委員会による評価	達成状況
<p>学校施設の適正な維持管理については、予算との兼ね合いもあるが、子どもたちが過ごしやすい環境が続くことのないよう、また、子どもたちの安全を最優先に考えて維持修繕等を進めていただきたい。</p> <p>トイレの洋式化については、多様性の時代の中で共用化等にも目を向けていただきたい。</p>	B
<p>ICTの活用については着実に進んできており、GIGAスクールサポートセンターの設置等、活用のための支援体制も整えられている。</p> <p>オンライン授業や、授業の中でのタブレットの活用、長期休業中の宿題等、多様な学びが提供されている。</p> <p>ホームページの仕様の統一により、複数の学校のホームページを見る際にはとても見やすいものになっている。</p>	A

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	主体的に生きるための学びと場の充実
-------	-------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 記念館や学校施設等の適正な管理運営により、市民への学習の場や活動の場を提供する。	①指定管理施設 上垣守国養蚕記念館、大屋かいこの里、山田風太郎記念館の適正な管理運営。 本年度で指定期間満了となる山田風太郎記念館の次期指定管理者の選定。 ②学校体育施設 学校と連携し、市民ニーズに対応した学校体育施設の開放事業を実施することで、社会体育や文化活動等の継続的な支援を行う。
2 学校・家庭・地域が連携した子どもの活動支援や、安全安心な子どもの居場所づくりを行う。	①市PTAのフォーラム開催や市への要望書の取りまとめ、市子ども会連絡協議会のドッジボール大会などの活動を支援することで、子どもや保護者の交流を図るとともに、学校や地域との連携を強化する。 ②市内全小学校及び義務教育学校前期課程で、地域やボランティア、学童クラブ、社会福祉協議会などと連携した「放課後子ども教室」を実施する。
3 「二十歳のつどい」を実施する。	①今年度予定の「令和5年養父市二十歳のつどい」について、新型コロナの状況確認や感染症対策を十分に講じた上で、適正に実施する。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等
○達成した ●達成できなかった
○指定管理施設が適正に運営されるよう、毎月のモニタリングや運営協議会を3回開催した。 ○山田風太郎記念館の指定管理者が決定した。  ○感染症対策を徹底しながら、学校施設の開放を行い、活動を支援した。
○新型コロナウイルス感染症のため、市PTCAフォーラムはオンラインで配信した。 ●新型コロナウイルス感染症のため、ドッジボール大会は中止した。  ○放課後子ども教室は、すべての小学校及び義務教育学校で実施した。 ●ボランティアの確保が難しく、活動をサポートするために市の会計年度任用職員で対応することもあった。
○1月8日(日)にやぶ市民交流広場ホールで開催。対象者200名のうち当日出席が149名(74.5%)が参加した。 ○PCR検査は無しとしたもののコロナ対策の制限のある中、実行委員会から提案されたアトラクションとして小中学校時代の写真映像、八鹿高校音楽部の合唱を取り入れることができ喜ばれた。 ○18歳を迎える成人に向けお祝いのメッセージを送ることに初めて取り組んだ。

課名
教育課 (旧社会教育G)

評価者の別	
○	担当課評価
○	内部評価
○	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)	
4 内部評価	5 外部評価
自己点検・評価委員会による評価	外部評価委員会による評価
達成状況	達成状況
指定管理施設の管理運営については、毎月各施設を訪問してモニタリングを実施する等、適正な運営のための仕組みが構築されている。また、運営協議会を実施して各種課題等の情報を共有している。 学校開放については、学校と連携して、社体育団体や文化団体等に対して広く施設を開放し、活動の場を提供することで活動の支援を行っている。今後は体育館以外の施設の開放についても検討していく。	各記念館の管理運営については、毎月のモニタリングの実施や運営協議会の開催等、適正な運営のための取組が実施されている。また、市民ニーズに応じて各施設を開放し、活動の場を提供して活性化に寄与している。
A	A
新型コロナウイルス感染症対策のため、中止したり開催方法を変更した事業があったが、PTCAフォーラムについては昨年引き続きオンラインで開催する等、コロナ禍での新たな取組が実施されており、行事の意義やあり方を見直す機会となった。放課後子ども教室についてはボランティア確保が今後の課題である。	市PTAの活動支援については、コロナ禍でフォーラムをオンライン開催し各家庭で視聴する等の画期的な取組が行われている。コロナ禍によりドッジボール大会は中止となったが、小模校ではチームがつかれないという状況もあり、子どものニーズと保護者のつながりづくりのための代替事業について検討していただきたい。放課後子ども教室については、ボランティアの確保は多くの事業で課題となっており、各種団体との連携を進めていただきたい。
B	B
成人年齢が18歳に引き下げられて初めての開催であり、厳粛かつ心温まる式典を行うことができた。また、成人を迎える18歳の市民には、お祝いのメッセージを送る等の新たな取組も実施している。	コロナ禍の中での式典の開催にあたり、感染症対策をとりながらもなごやかに落ち着いた雰囲気での式典が開催された。18歳の新成人に向けたメッセージも、制度改正後の新たな取組として、対象者から喜ばれている。
A	A

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	文化財等歴史文化遺産の保存と活用を進める
-------	----------------------

## 2 評価項目(目標設定)

評価項目(目標)	取組内容
1 歴史文化遺産を継承するため、国や県の補助事業等を利用して文化財整備事業を実施する。さらに、埋蔵文化財の調査を実施する。	①八木城跡殿屋敷地区及び重要伝統的建造物群保存地区(大屋町大杉地区)における計画的な整備を実施する。 ②建築確認申請や開発工事等に伴う埋蔵文化財包蔵地の取り扱いに対応し、必要な調査を実施する。
2 市民団体による県指定文化財等の保存活動を支援する。さらに、市民に対して文化財情報を発信し市内の文化財を顕彰する。	①伝統芸能を継承する団体をはじめ、文化財保護団体等が行う活動を支援する。 ②ホームページ等を利用して文化財情報を発信し、日本遺産推進協議会等と連携して各種のPR事業を実施する。
3 市が設置する文化財施設を適正に管理することで、市民が文化財や歴史を学習する場を提供する。	①市立施設等の管理 大庄屋記念館はシルバー人材センターへ委託し、青谿書院記念館は宿南地区自治協議会へ委託して管理する。 ②国指定文化財等の管理 八木城跡・箕谷古墳群・樽見の大桜等、市が所有する文化財を利用した歴史公園を管理する。

## 3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○達成した</li> <li>●達成できなかった</li> </ul>
<p>○八木城跡殿屋敷地区の南堀付近の整備工事を実施し、対象地の約3/4の面積が完成した。大杉地区は3件の住宅修理工事を支援し完了した。</p> <p>○建築確認申請や砂防工事に伴う照会に回答した。一部の古墳では現地調査を実施し、兵庫県教育委員会と協議した。</p> <p>○平成27年度から実施した国指定重要文化財名草神社本殿拝殿保存修理工事が完成した。10月23日、地域と連携して完成式と記念イベントを実施した。</p>
<p>●文化財保護団体の中には区を基盤とするものが多く、高齢化や人口減少が進む中で活動が難しくつつある。</p> <p>○ホームページを利用した文化財情報の発信を着実に継続した。日本遺産推進協議会では高校生ワークショップの実施を担当し、やぶ市民交流広場のホールロビーでは兵庫県の巡回展を開催した。</p> <p>○名草神社保存修理説明資料パンフレット、「上垣守国と養蚕の国」冊子を発刊した。4年ぶりに第28回養父市ふるさと歴史講演会を開催した。</p>
<p>○記念館の2施設を管理した。大庄屋記念館では初めてドラマのロケ地を受け入れ、12月末から公開されている。青谿書院記念館は小学校、中学校、義務教育学校の団体見学により見学者が増加している。</p> <p>○市が所有する八木城跡・箕谷古墳群・とが山古墳群・堀畑1号墳の歴史公園を管理し、樽見の大桜樹勢回復作業を実施した。</p>

課名
歴史文化財課

## 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

## 4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
八木城跡殿屋敷地区や重要伝統的建造物群保存地区等の文化財の整備事業については、国や県の補助事業を活用しながら積極的に実施されている。 名草神社の完成式及び記念イベントについては、ざんざか踊りの奉納等、地域や関係課と連携しながら実施することができた。	A
文化財保護団体等の活動の支援については、高齢化が進む中、地域の力がなければ活動の維持や保存が難しい状況にあり、持続可能な形で受け継ぐことができるよう、視点を変えた支援が必要である。情報発信については、日本遺産の高校生ワークショップの実施や巡回展の開催、ホームページでのPR等積極的に行っている。	B
文化財施設の管理については、各種団体に委託する等しながら適正に管理が行われている。大庄屋記念館や青谿書院には市内の小・中学生が見学に訪れ、実際に文化財を見て歴史について学習する良い学びの場となっている。八木城跡についても整備を進め、今後更に活用していく。	B

## 5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
八木城跡殿屋敷地区の整備については着実に進んでおり、今後の積極的な活用が望まれる。 名草神社の完成式と記念イベントは、ざんざか踊りの奉納や大学生による演劇の上演等、多くの方の参加を得て盛会に実施された。 養父市の宝と言えるすばらしい文化財を更に多くの方に知っていただけるような取組をお願いしたい。	A
市民の手によって保存・継承されている文化財の維持や活動の継続については、高齢化や人口減少等の昨今の情勢により活動が難しい状況にあるが、地域の伝統芸能や文化財が失われることのないよう、継続した支援が必要である。 文化財に関するパンフレットや冊子の発行等、積極的な情報発信を行っている。	B
市立の記念館や歴史公園等の維持管理を適正に実施しており、市内の小・中学生の見学の受け入れを行うことで昔の暮らしや先人についての学びの場を提供している。また、初めてドラマのロケ地となる等、新たな活用も積極的に行われている。	A

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	スポーツ環境づくりの推進
-------	--------------

## 2 評価項目(目標設定)

評価項目(目標)	取組内容
1	いつでも気軽に、快適にスポーツができる環境づくりを進め、年齢や目的、ライフスタイルなどに応じて行うスポーツ活動と健康づくりを支援する。 ①各種スポーツ大会 「イヌワシ駅伝」「グラウンド・ゴルフ大会」「フットサル大会」など ②各種教室 「陸上教室」「テニス教室」など ③レクリエーションスポーツの普及 ④スーパーアスリート事業
2	スポーツ施設が将来にわたり安全で安心して利用できるよう、長寿命化に向けて取り組む。 ①八鹿総合体育館等の長寿命化のための実施設計 ②全天候運動場の長寿命化のための実施設計 ③都市公園施設など直営施設の適切な管理
3	養父市スポーツ協会などの自主的で継続的な活動に対する支援やジュニアスポーツ団体が安全で安心して活動できるよう支援する。 ①養父市スポーツ協会や種目協会と連携した「スポーツフェスティバル」の開催 ②スポーツクラブ21に対する支援 ③こどもスポーツ安全保険補助や主要大会等出場時の交通費等補助
4	ワールドマスターズ開催に向け、養父市で開催予定のオリエンテーリング競技について、体験会の開催等により、競技の普及やPRを行う。 ①2027年5月開催に向けた機運醸成を図るため、オリエンテーリング体験会などの実施

## 3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○「イヌワシ駅伝(23チーム、126人、スタッフ66人 合計192人)」、「グラウンド・ゴルフ(個人戦87人、団体戦16チーム96人)」「フットサル大会(8チーム78人)」など年度当初に予定していた事業は感染予防に努めながらすべて実施 ○「陸上教室(全20回 小学生高学年 延べ194人、小学生低学年 延べ299人)」「テニス教室(全8回 延べ97人)」「フットサル教室(15人)」など予定どおり実施できた。
○「レクリエーションスポーツのあれこれ」を2回開催し、また、障がい者スポーツとしてのレクリエーションスポーツの普及を行った。
○スーパーアスリート事業は元アテネ五輪卓球日本代表選手藤沼亜衣さんを招聘し、実施した。
○都市公園施設(八鹿総合体育館、テニスコート)、全天候運動場における長寿命化の実施設計が完了した。 ●管理している施設において、喫緊に必要な修繕は実施したが、ようか温水プールは建築してからかなりの年月が経過しているため、他の都市公園施設と同様に長寿命化の計画を立てる必要がある。
○スポーツ協会と連携し、計画どおり「スポーツフェスティバル」を開催できた。
○スポーツ21の基金管理や活動支援を行った。スポーツ21養父市連絡協議会主催でグラウンド・ゴルフ大会を行った。 ○こどもスポーツ安全保険補助を行った。また、スポーツ団体や文化団体が近畿大会以上の大会に出場する場合の補助について、「八鹿青溪中学校野球部」「養父太鼓」「藤木健匠くん」の2団体、1個人に補助金を支給した。
○オリエンテーリング体験会を2回実施、また、ハチ高原において日本オリエンテーリング協会主催でスキーオリエンテーリングが開催され、養父市も協力した。 ●2027年のワールドマスターズ開催に向け、更なる競技の普及やPRを行う必要がある。

課名
生涯スポーツセンター

## 評価者の別

○ 担当課評価
○ 内部評価
○ 外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

## 4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
感染症対策を講じながら、各種スポーツ大会を主催し、計画していた事業について実施することができた。各種教室についても予定どおり実施し、スポーツ活動を行う機会を提供した。 スーパーアスリート事業では、元オリンピック選手から直接指導を受けることで、スポーツに対する意識の啓発に取り組んでいる。	A
各スポーツ施設の安全・安心な利用のため、長寿命化に取り組んでいる。各施設とも建築してから年数が経過しており、長寿命化と合わせて適切な維持管理が必要な状況である。	B
養父市スポーツ協会や関係団体と連携し、スポーツフェスティバルを開催して、団体の自主的な活動の活性化を支援した。 こどもスポーツ安全保険補助や大会出場時の補助等により、金銭的な支援も実施している。	A
オリエンテーリング体験会を実施し、普及に努めているが参加者が少ない状況である。学校や子連協とも連携しながら、競技自体の普及やPRをしていく必要がある。	B

## 5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
コロナ禍を経て、規模を縮小する等はあったものの、当初の計画どおりに主催するスポーツ大会を実施することができている。各種教室についても、外部講師を招いて実施され、多くの参加を得ている。 スーパーアスリート事業では、中学生や一般の方も参加し、直接指導やアドバイスを受ける機会をつくることで、スポーツに対する意識の向上にも取り組んでいる。	A
市の管理するスポーツ施設の適正な維持管理については、建設後30年以上経過している施設もある中で、長寿命化に取り組む等、適切に管理されている様子がうかがえる。施設の稼働率も高く、市民の安全・安心なスポーツ環境として、今後も継続していただきたい。	B
「スポーツフェスティバル」ではスポーツ協会と連携・調整し、それぞれのスポーツで適切な時季に大会を開催して活動の活性化に努めている。 それぞれの地域で地域に合った活動をしているスポーツクラブ21に対して活動支援を実施している。	A
ワールドマスターズゲームズ開催が2027年まで延びたことで機運の維持が難しい状況にあるが、積極的にPRしていただくとともに、学校行事に取り入れていただく等、体験することで興味を持ち、開催を楽しみにできるように工夫して取り組んでいただきたい。	B

# 令和4年度養父市教育委員会評価調書(評価)

## 1 本年度の教育推進の重点

<b>推進の重点</b>	食育推進とともに、衛生管理を徹底し、安全、安心な学校給食を提供する
--------------	-----------------------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 学校給食の充実と教育活動全体を通じた食育の推進	<p>①衛生管理を徹底して、安全、安心な学校給食を提供する。</p> <p>②成長期の子どもの健康の保持増進、心身の発達と望ましい食習慣の形成を図るため、学校給食の充実と食に関する指導の充実を図る。</p> <p>1) 栄養教諭(栄養職員)による食育指導 2) 学校給食を活用した意識啓発・やっぷーメニュー、かむかむ給食、食育の日、はばたん給食(ふるさと給食)の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食だより、献立表の配布</li> <li>・食育体験(食材の皮むき等)</li> <li>・夏休みクッキング教室</li> <li>・こども園への出前講座</li> <li>・子どもが作る弁当日の支援</li> <li>・学校での試食会の開催</li> <li>・給食センターの見学・試食会の開催</li> </ul> <p>③食物アレルギー対応の実施 ④但農給食の取組</p>
2 学校給食センターの適正な管理・運営	<p>①施設・設備の維持管理と運営・デマンドによる管理で適正な電気使用量に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期点検や必要な修繕を行い、各種設備機器の維持管理に努める。</li> </ul> <p>②衛生管理を徹底し、食中毒予防や異物混入防止を図る。</p> <p>③職場の労働安全の確保 ④食材の調達と地産地消の推進を図る。</p>

## 3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○達成した</li> <li>●達成できなかった</li> </ul>
<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で全校休校や欠席児童があり、給食提供日の変更が続く時期があったが衛生管理を徹底し給食を提供した。</p> <p>○多くの食材を使用した手作り給食を提供し、学校給食の充実と食育に努めた。旬の地場産物や特産物の使用は、食材への関心と生産者への感謝の心を育み、残食量の減少や食育推進につながっている。</p> <p>○栄養教諭による給食指導や食育指導は学校と連携して実施できた。</p> <p>○情報課と共同制作している調理番組「おうちでつくろう学校給食」を6回収録し放送した。</p> <p>○医師の指示のもと保護者や学校と連携し事前確認を徹底し食物アレルギー対応を適切に行った。</p> <p>○栄養や望ましい食習慣等、食育について児童生徒、保護者等に情報提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立表・給食だよりの発行11回(R3年11回)</li> <li>・ひとくちおたよりの発行(給食提供日毎日)</li> <li>・食育指導(授業時間)144時間(R3年150時間)</li> <li>・給食指導(給食時間)156回(R3年175回)</li> <li>・食育体験8小学校(R3年7小学校)</li> <li>・給食センター見学1回(R3年2回)</li> <li>・こども園出前講座10回(R3年9回)</li> </ul> <p>○第8回養父市学校給食コンテスト及び但農給食の取組を継続し、実施した。</p> <p>○各種設備機器の日常点検と定期点検を強化的に実施し、必要な部品交換、修繕を行った。</p> <p>○センター屋上に空調や蒸気の設備があるが、外階段の設置工事を行い、3月10日で完成した。</p> <p>○食中毒予防や異物混入防止に努めるとともに、ヒヤリハット事例を全職員で確認し、事故予防に努めた。</p> <p>○H31年4月に認定を受けた食品衛生管理プログラム(兵庫県版HACCP)の3年毎の更新の承認を受け、引き続き衛生管理の徹底に努めた。</p> <p>●配送車の事故が1件あったため、配送マニュアルの見直しや交通安全研修を全職員に行った。</p> <p>○学校給食用食材の納入業者登録を基に、食材調達を適切に行うように努めた。</p> <p>○新規就労者の有機栽培野菜を試験的に取り入れ、ピーマン・ほうれん草・にんじんを合計367kg、11日分の給食に使用した。</p>

課名
学校給食センター

## 評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況  
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<p>新型コロナウイルス感染症対策や気象警報等による休校での給食変更の対応に追われながらも安心・安全な給食の提供を行っている。</p> <p>食を食べることは生きることに直結しているという意識を持ち、アレルギー対応や多彩なメニューの提供、また食育指導や給食指導による食育の推進に取り組んでいる。ひとくちおたよりの発行も、子どもたちが毎日給食の時間に読み上げるなど、情報提供として定着している。</p>	A	<p>アレルギー対応や休校等による量の調整、食育指導等、学校や家庭としっかり連携・協力しながら安全・安心でおいしい給食の提供に努めている。</p> <p>栄養教諭等による丁寧な給食指導・食育指導により、食育の推進に積極的に取り組んでいる。また、給食センターの見学の受け入れについても積極的に行っていたきたい。</p> <p>日本一にもなった、養父市のおいしくて栄養のある給食を楽しく食べて育ったということに子どもたちが誇りを持ってよう、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>	A
<p>施設・設備の適正な維持管理のため、新たにセンター屋上の設備を確認するための外階段を設置し、更に徹底した点検を行うための環境を整備した。</p> <p>施設の稼働開始から7年が経過し、不具合の出ている設備もあるため、計画的な修繕等を行っている。</p> <p>有機野菜の導入については、関係部局とも連携しながら継続して実施する。</p>	B	<p>適正な施設・設備の維持管理のため新たに外階段を整備し、設備の点検をしやすい環境づくりに努めている。</p> <p>食中毒予防や異物混入防止等、厳しく管理することを求められる職場であるが、徹底した衛生管理のもと、適正に運営されている。</p> <p>地産地消の推進や有機野菜の使用については、量の確保や献立との兼ね合い等大変なこともあるが、関係部局とも連携を密にしながら推進を図っていただきたい。</p>	B